

今さら聞けない…



教育用語

Q&A

…… Vol.9 ……



「ライフステージに応じて職層を選択する」って、具体的にはどういうことですか？

職場では管理職や先輩に、また研修会などでも、「ライフステージに応じて」「教職者としてどのような道を歩むか」「職層をどう選択していくか」などによく言われるのですが、自分として何を見通せばよいか、分かるようで分からないのですが……。

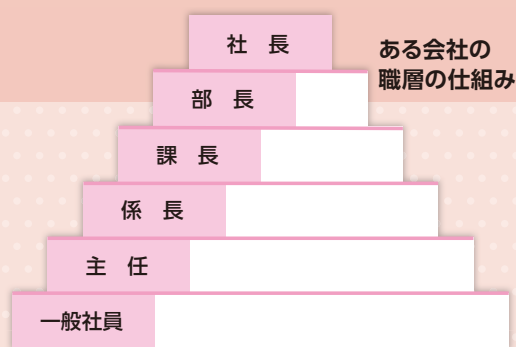
Q1

「教員の職層」って何？

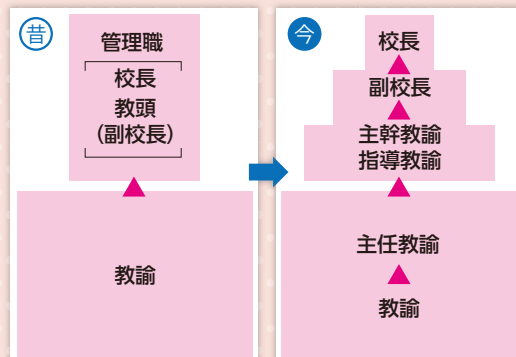
役所などでは、**主事→主任→係長→課長補佐→課長→部長**というように、経験や実績に従って役職が変わり、仕事内容やその責任の重さなどが変わる仕組みになっています。また、民間企業でも同じような役職があり、上記の他に専務や代表取締役といった企業経営の中心を担う人たちの役職があるのが一般的です。

教員の世界では、役職が細分化されておらず、「**教諭**」と「**管理職**」くらいの大まかな分け方でした。しかし、社会情勢の変化とともに、学校全体の教育力を高めていくため、学校をより組織的に機能させるしくみが必要になり、多くの「職層」が定められるようになりました。

東京都の例で見ると、**教諭→主任教諭→主幹教諭・指導教諭→副校長→統括校長・校長**、というように職層が定められています。教諭は「2級職」、主任教諭は「3級職」、主幹教諭・指導教諭は「4級職」、副校長は「5級職」、校長が「6級職」とされ、給与額と連動して等級が決められています。



教員の職層 (東京都の例)



Q2

「ライフステージ」って何？

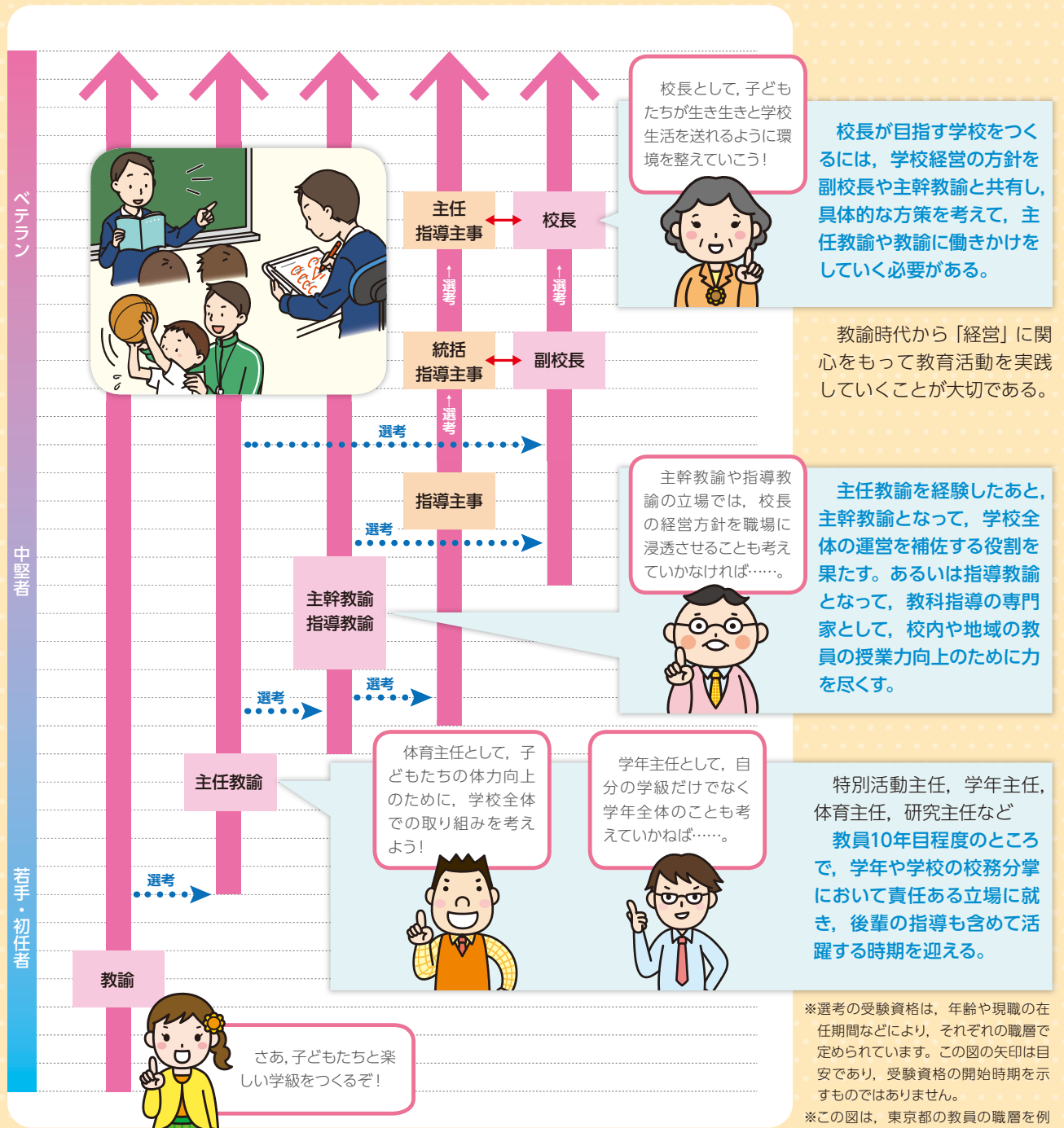
「ライフステージ」とは、人生の節目となる出来事 (例えば入学や卒業、就職、結婚、退職など) や年齢によって区分される生活の段階のことをいいます。この段階によって、取り組むべきことや求められる資質・能力、気持ちの持ちようなどが変わってきます。教員でいえば、例えば、初任・10年目・20年目・30年目のように経験年数で区分したり、初任者・中堅者・ベテランなどのように経験年数と実績を合わせて区分したりします。



Q3

「ライフステージに応じた職層を選択する」とは？

教職の経験とともに、教員としてどんな力をつけておくべきか、組織の中でどんな活躍をすべきかが変わってきます。それを見通して、自分がどんな立場で仕事をするか、職層を選択していく必要があります。



自治体によって異なる

上記の図は東京都の職層を例にしたものであり、教員の職層の数や名称は自治体によって異なります。また近年は、教員の人事制度の見直しにより、職層が増える傾向にあります。自分がどのような職層を選択するかを考える際は、所属する自治体の任用制度や選考についてよく調べておくことが大切です。

見通しをもって教職を務める

教員になってから数年間は、目の前の仕事で一杯かもしれません。しかし、教員としての職務がだいたいイメージできるようになったら、教職のライフステージを意識して、自分はどのように仕事をしていくかを考えていきましょう。